

講義名	健康科学（1年生のみ）				授業形態	
担当教員	山下 新樹	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード
主題と概要						
現代社会は、経済性、利便性、効率性の名のもとに人間を動かない方向へと押しやり、その傾向はとどまることを知らない。その結果、油断していると運動不足病といった心身へのひずみが生じる。このような社会において、よりたくましく生きていくためには、運動やスポーツを生活の中に位置づけていく態度と能力が必要であり、学生時代はその基礎を確立するための最も大切な時期といえる。この時期に運動やスポーツと健康とのかわりを知り、身体活動の実践をとおしてその意味と喜びを体験的に実感していくことが必要である。 本授業では、大学生として最低限知っておく必要があると思われる実践的な「健康法」について学習し、生涯スポーツとしての基礎を確立できるようになることを目標としている。						
到達目標						
「健康」の維持・増進のための理論を学習し、自分自身の健全な身体と精神を守れる自己管理能力を身につけられるようになる。						
提出課題						
授業の最後に授業についての確認課題を提出してもらう。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
授業の始めに前回の授業で提出した課題の解説を行う。						
評価の基準						
授業実施時間数の5回以上欠席した者は単位を認定しない。 授業中の評価：受講態度など.....20% 中間期の評価：小テスト.....10% 期末期の評価：記述式テスト.....70%						
履修にあたっての注意・助言他						
・第1回目の授業にて、健康科学理論を学ぶための基礎知識と講義の進め方について、詳しく説明する。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						

その他		
授業計画		
1. 健康科学理論を学ぶための基礎知識と講義の進め方 2. 健康・体力の概念 3. アルコールの身体への影響 4. タバコの身体への影響 5. 運動不足と生活習慣病 6. 運動不足と生活習慣病 7. 運動不足と生活習慣病 8. 身体活動の必要性 9. 肥満について 10. スポーツトレーニング 11. 救急法 12. ドラッグの危険性について 13. STDについて 14. オリジナル 15. まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習 授業で使用する資料をポータルからダウンロードし、準備しておくこと。 資料の空間について質問するので、答えられるように調べておくこと。（2時間程度） 復習 資料をもとに、ノートにまとめ直すこと。（2時間程度）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の3項目（ ）および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。 授業で得られた知識、さらに自ら収集した情報を分析し、現状を把握すると同時に、問題点を見ることができ、そして、新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値や改善案を提案することができる。 また、生涯にわたってスポーツに関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
備考		